

広報誌

ほのぼのだより

～ほのぼのとした暮らし、ほっとできるひとときを～

第9号

秩父市社会福祉事業団

令和2年11月発行



～もくじ～

- 楽々介護で、愉快的な生活 P 2, 3
- 感動の集う場所、そこは、にじいろテラス P 4, 5
- 連載『今ありて』 P 5
- 大空を見上げて、深呼吸... P 6, 7
- ひとりじゃないから P 7
- 連載『風に吹かれて』 P 8, 9
- 趣味『悠・遊』、私のお気に入り P 10
- ほのぼのTOPICS P 11
- 専門職のコーナー P 11
- Information P 12

表紙の写真

青い空、流れる雲、色
付くイチョウ、踏みし
める落ち葉の音、隣を
歩く人の温かさ、この
日のこの景色、この思
い…。いつの日か、思い
出してほしい。

なるほど、そうだったのか～

楽々介護で、愉快的な生活

大切な人のお手伝いが、少しでも楽になるように...

みなさまの暮らしが快適なものになるように...

笑顔が大事、でも...

介護者は、笑顔が基本です。自然と心は伝わります。

でも、いつも笑顔でいられるでしょうか？

笑顔になれない時もあるのではないのでしょうか？人間だもの...

施設での介護も、ご家族による介護も、チームで行うことが大切です。

ひとりでやるのは大変、上手に誰かに頼って、みんなで協力して...

誰か相談できる人がいるといいですね。そうしたご相談も、いつでも私たちはお待ちしています。

少しでも自然に笑顔が増えるよう、お手伝いさせていただきます。



どうやって、伝えよう

みなさんは、相手に何かを伝えたい時、どうしますか？

まずは、『一生懸命話す』ことです。言葉の意味が伝わらなくても、「なんだか、一生懸命だ！」ってことは伝わるものです。

そして、『ちょっと、待つ』こと、相手のペースも大切です。(これ、難しいですね、)

そうして少しずつ関係性が出来ていきます。仲良くなれるといいですね♡

話をする以外にも、色々な方法でメッセージを伝えることができます。触れること、しぐさやジェスチャー、外見や身だしなみ、表情や視線、相手との距離や呼吸などなど...

「目は口ほどにものを言う」なんて、言いますもんね。

手をつなぐ、赤ちゃんを抱っこする、恋人と抱き合う、親の腰をさするなど、人は日常生活の多くの場面で相手に触れることで、安心感を得たり、与えたりしています。

『触れる』ということは、人を安心させて不安を和らげる効果があります。

(どこ触ってるのよ！急に触れて驚かせないように...、相手の気持ちも考えて...)

伝えたいことが伝わると、嬉しい気持ちになります。伝えたいことをうまく伝えられなくても、伝えたいことを表現すると、少し何かが変わるように思います。

気持ちと気持ちが行き来して、心と心がふれあって感じる温かさは心の栄養です。

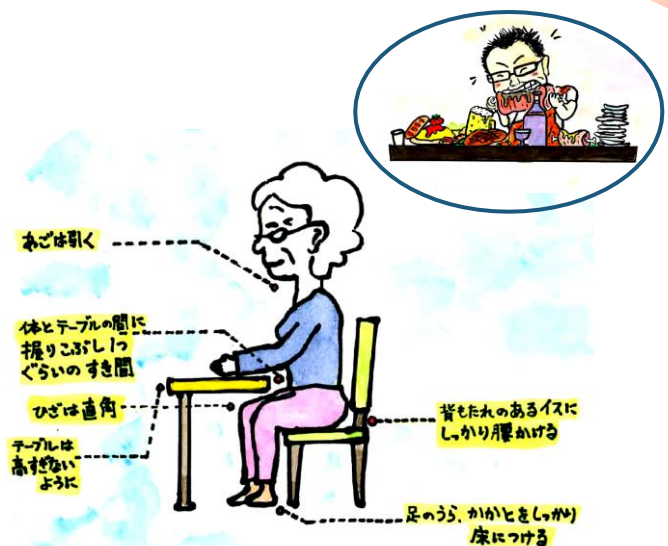
食べることは、生きること

ソクラテスは言っています。「生きるために食べよ。食べるために生きるな」と...。「食物を愛するより誠実な愛はない」と語っている方もいます。そして、「医食同源」という言葉もあります。食べることは、生きること...

「誤嚥」これも、よく聞く言葉です。食べ物が誤って喉頭や気管に入ってしまうことを言います。ちゃんと、口から食道に行かなかったということです。

誤嚥を防ぐポイントは、「ゆっくり食べること」、「よく噛むこと」、そして、とにかく「正しい姿勢」が大事です。正しい姿勢、ぜひ意識してみてください。

いつもの食事が、いっそう美味しくなるはずです。



支えて、支えられて

介護における歩行介助のポイントは、『動きを妨げない』ことです。介助者の立つ位置は、いつでも支えられるように斜め後ろに立ちます。そして、麻痺がある方の場合、麻痺側に立ちます。杖を使用している方の場合、杖を持っていない側に立つようにします。相手の動きに合わせて、声を掛けてみるとスムーズに足を動かすことが出来ます。

『動きを妨げない』ためには、相手のことを知ること（体の動きや気持ちなど）が大切です。そして、呼吸を合わせて、リズムを合わせて…。ひとつずつ、声を掛けて接すると、相手の人も安心することができ、介助もとても楽になります。

麻痺側に立つなど、弱い側を支えるということは、日々の私たちの仕事に通ずるものがあります。

一番困っている人は誰だろう…。一番大変な人は誰だろう…。そうした人の支えになりたいと思っています。「誰かを支えたい、支えている」と思いながら、気付けば自分が誰かに支えられているということがよくあります。『支え合って』とは、よく言ったものです。介助する人と介助を受ける人の関係も、支え合っている関係であるといいですね。

お互いがお互いを支えていると感じた時、幸せを“分けっこ”したような気持ちになります。

冬のお風呂は、気を付けて

冬場、お風呂に入って体を温めてから寝ると気持ちよく良い睡眠がとれます。でも、お風呂には危険がいっぱいです。

皆さん、「ヒートショック」はご存じですか？急に、暖かい所から寒い所へ行ったり、寒い所から暖かい所へ行ったりすると、身体がびっくりして悪影響が生じます。命にかかわることが起きる場合もあります。安全で快適な入浴に向け、次のことに気を付けてください。

- ・入浴する時は、家族に声をかける。
- ・入浴前、脱衣所、浴室を温める。
- ・入浴前、水分を摂る。
- ・アルコールを摂取しての入浴は控える。
- ・長風呂を避ける。出来れば、10分以内で。
- ・お湯の温度は、41℃以下。
- ・浴槽に入る前に、かけ湯をする。
- ・急に立ち上がらない。

そして、万が一の時は浴槽の栓を直ぐ抜いて、119番。



これでいいのだ

誰かのために、何かすると気持ちが良いものです。でも、誰かのために、何かをし続けるのは何だか大変なことのように入います。

たとえどんなに愛していても、その人に成り代わることは出来ません。そして、その人の気持ちを全て解ることもできません。

あなたの気持ちを解りたいな、私の気持ちを解ってほしいなと、いつも思っています。

誰かのために何かをし続けるのであれば、誰かを愛する形を表現するのであれば、感じてほしいと思います。「これでいいのだ」と…。

そして、私たちは皆さまで一緒に考えたいと思います。「これでいいのか」ということを…。

令和2年8月1日 open



感動の集う場所、そこは「にじいろテラス」

寺尾デイサービス

体験してみてください。

どこにもないデイサービスが、ここにあります。



ふあいん・ユー

明日につながる今日がある。

未来につながる今がある。

ここは、人と人、心と心を繋ぐ場所。

毎日が、スペシャル！！！！



ゆるる

新しい場所！新しい友達！新しい出会い！新しい遊具！
ここは、ぼくらの大好きな場所！ 今日が始まる「ゆるる時間」



星の子教室

みんな違う、それがいい。ここは、大切な輝きが重なるステージ。
しっかりと、のびのびと。



連載 今ありて 『この一步を大切に』

星の子教室 保育士 江田美奈

「星の子教室に通って本当に良かった」と心からそう思った3年前の春。

私の息子は、産まれた時から脳性麻痺の為、両足に麻痺がありました。保育所に通い始めたころ、保健師さんから星の子教室を教えてもらいました。しかし、私は息子にとって星の子教室の必要性を感じていなかったため、なかなかすぐには通うことがありませんでした。今振り返ると、その当時の私はまだ息子の障害のすべてを受け入れられていなかったのかもしれません。「息子は、通う必要はない。大丈夫だ」と...

ですが、主人からの後押しもあり週1回定期的に通うようになり、息子の良い所やもっと伸ばしていったほうが良い所など、私の知らない息子の姿を目の当たりにしました。そして、少しずつですが私自身の心にも変化がありました。そして一番感じたことは、「自分は1人じゃないんだ...」という思いです。星の子教室に通うまでは、家族以外の人になかなか息子の障害の話などできませんでした。でも、星の子教室で同じような悩みや境遇のお母さんが沢山いることを知り、とても勇気づけられました。そして、何でも話せて悩みを打ち明けられる温かい先生方の存在はあの頃の私にとって、とても大きな心の支えでした。息子も星の子教室が大好きでした。

そんな私は、今、星の子教室の保育士として働いています。まだまだ新米な私ですが、少しでも星の子教室に通う保護者の方や子供達の為に微力ながらも力になればと毎日思いながら保育をさせて頂いています。そして3年経った今も、星の子教室に通っていたあの頃の気持ちは変わらず、ずっと自分の心の支えになっています。

『風に吹かれて』【Heart. 17】

「大空を見上げて、深呼吸...」

今、やりたいことは何ですか？ 簡単そうなことが、簡単では、なくなっています。
そんな今でも、大切なものは、大切にしたい。あなたと一緒にいるのなら...。



令和2年10月1日 中秋の名月を仰ぐ



私の大切な、
あなたの笑顔



デイサービス
愉快地にハッスル中！！





新施設への門出を祝う芝居、「水戸黄門」
旅立ちの言葉は「声援」です。



今年も何とか、夕涼み会が出来ました。



それぞれに、
それぞれの思いを胸に



このダンス、捧げたい人がいます。

『ひとりじゃないから』

「できるだけ密は避けましょう」、「不要不急の外出は控えましょう」という話は、長寿荘で暮らす皆さんにとってはとても難しい問題でした。

長寿荘での生活は「少しでも自立した生活を」、「皆で支え合って頑張ろう」、「一緒に楽しく過ごそう」、「自分らしい暮らしができるように」ということを目指しています。コロナ禍において、新しい生活様式が求められる中、日に日に少しずつ溜まるストレス...

どうかならないものか...？ みんなで知恵を出し合って色々な工夫をしました。

- ・ 地元商店へご協力をお願いしての出張菓子販売
- ・ 運動の力を信じ、体を動かすイベント実行
- ・ 衣類や履物などはお気に入りを見つけカタログショッピング

長寿荘の暮らしの中でも、自然とコロナへの関心は高まっています。テレビや新聞等で情報収集をする方、町で暮らす家族の心配をする方、そして、予防に余念のない方、思い思いにコロナと向かい合っています。

買い物に出かけられる日を指折り数えるご婦人も多数...。当たり前の日常の有難さを感じています。コロナだからできないじゃない。コロナでもできること、コロナだからこそ気付くことができた思い...。コロナのおかげで得たものを大切にしていきたいと思っています。

思うように出かけられなくても、今までできたことができなくても、長寿荘の暮らしは工夫と協力に満ち溢れ、コロナ前より充実したかな...？

ウィズコロナ、これが今の日常...

大丈夫、ひとりじゃないよ。全集中！

長寿荘相談員 高橋浩司

連載 『風に吹かれて』 ～心のかたちを知りたくて～

・・・もし心に形があるならば、もし心に色があるならば、たしかな思いを丁寧に紡いで綴ります。

『夢の途中』

偕楽苑 介護支援専門員 佐久間寿一

1993年、サッカーのＪリーグが開幕した。超満員の国立競技場。煌びやかな演出。鮮やかなユニフォームに身を包んだ選手たち…。小学3年生だった私は、すべてが鮮やかで瞬間に心を奪われた。そして、大切な夢が見つかった。

毎日毎日、学校から帰りランドセルを置くとすぐ、サッカーボールを抱えて近所の公園へ飛び出した。公園には、約束をせずともサッカーに夢中の仲間がいた。そして、日が暮れるまでボールを蹴って過ごした。その後、所属したのは無名のチームだったが、小学6年生の時に市の大会で準優勝することができた。市内でもちょっと名の知れはじめた私は、このままサッカーを続ければ、いつの日かプロサッカー選手になれるだろうと、淡い思いを抱くようになった。チームの監督から「自分が今どの位のレベルか試してこい」と言われ、Ｊリーグジェフ市原のジュニアユースのセレクションを受けた。セレクションには、同じ夢をもつ1,000人近くの少年が集まっていた。1次、2次、3次と通過し、最終選考に残ったのは22人。セレクションの最終合格者は12人。ひとつ目の夢が叶った。ずっとずっと憧れていた秋田犬が描かれたエンブレムを身に着けることができた。大きな誇りを胸にして、ジュニアユースでのチャレンジが始まった。ジュニアユースでは、厳しい現実が待っていた。何もかもが違った。「すごいところに来てしまったな」率直な思いであった。これまで通用していた得意のドリブルが通じない。日に日に苛立ちとも、焦りとも言える感情が募った。当時の育成組織は学年が変わるたび振るいかけられるシステムだった。そのため、新中学1年生が加入する春までには、既存の選手の中から退団を迫られる。まさに、サバイバル。同期は、仲間であると同時にライバルでもあった。時に競い、時に励まし合い、一緒に同じ時間を過ごした。だからこそ、去っていく仲間の背中を見るのは辛かった。でも、どこかに安堵感もあったように思う。プロへと続く道の厳しさを肌を感じ無我夢中で走り続けた。

ひたすらにボールを蹴る毎日過ごす中で、中学3年生の夏に全国優勝し、優秀選手に選ばれた。そして「メニコンカップ」という、全国大会で優秀選手に選ばれた選手たちが一堂に介し、東西に別れて対戦する一戦にも参加することもできた。中学3年の最後の大会「高円宮杯」では、全国準優勝も経験した。



ジュニアユースからユース(高校年代)に昇格できるのは10人にも満たなかった。ユースでのレギュラー争いは過酷さを増した。その後、Ｊリーグで大きな成績を残す3人を抜いた枠を争奪しなければならなかった。レギュラーを勝ち取りたいとがむしゃらな思いでサッカーと向き合った。淡い思いの中にあったものは、少しずつはっきりとした景色の中に映っていた。



高校1年からレギュラーで出場し高校2年では念願の日本代表にも選ばれた。また、プロ選手の合宿にも参加した。プロの合宿に参加＝プロ内定は当時の暗黙の了解であった。しかし、高校3年生の冬に契約はされなかった。初めての挫折だった。大学の推薦や当時J2クラブの誘いも全て断った。両親の助言や恩師の意見を沢山聞いた。18歳の私は、全てが無くなったような感覚がしていた。その時の自分には「サッカーを続ける」という選択はなかった。高校卒業後、調理師専門学校へ進学。1年制でなんとか卒業したが、まったく情熱がわかず就職もしなかった。その後、流されるままに運送会社へ就職した。24歳の時、結婚したのを期に妻の地元に移り住み、平成20年に秩父市社会福祉事業団へ入職した。当初は、大きな情熱もなく淡々と業務をこなしていた。そんな折、平成23年に癌を患った。約半年間抗がん剤治療を余儀なくされた。抗がん剤の副作用で体力と精神力が削られていく中、親身に話を聞いてくれる担当医師や看護師。普段のように明るくお見舞いに訪れてくれる友人。自分のこと以上に心配する家族。その思いが温かく、何よりも心強かった。闘病中に感じた『ぬくもり』『やさしさ』そして、『心強さ』…。私の感じたものの意味…。そのことをずっと考えている。そして、自分自身を見つめている。

たくさんの出会いとたくさんの別れのある日々を送っている。出会う人の数だけ思いの数もある。「施設になんかお世話になりたくない。施設に入所したから仕方がない」そんな言葉や表情を浮かべる方がいる。施設には閉鎖的なイメージが社会の中でまだまだある。自分に何ができるのだろうか。

誰かの喜ぶことを実現したい。誰かの夢を応援したい。今ある力でできることを一緒に考えチャレンジしたい。今、それこそが私の生きがいになっている。そのために誰かの気持ちに寄り添いたい。誰かの気持ちをわかりたい。そして、私の気持ちを伝えたい。

サッカーや闘病中の時のように本気で向き合えば向き合うほど大変さを感じる。同時に、充実感や楽しさ、大きな喜びも感じる事ができている。子供の頃から、プロサッカー選手に憧れて走り続けた。まだまだ未熟である。でも、今、たしかな夢に向かって走っている。

【Heart. 18】



趣味 悠・遊

皆さんの趣味はなんですか？ 今も楽しんでいることをお尋ねしました



新井 カメさん
(偕楽苑)

一番のお気に入りには「伊勢神宮」の切手です。タンスの上に大事にしまってあります。以前働いていた中華料理屋さんに届いた郵便切手がとても美しく気に入ったのが、私が切手に興味を持ったきっかけです。その切手を初めて見た時の気持ちは今でも覚えています。

病院へ通院するために利用していたバス停の近くに郵便局がありました。そこで、美しい絵柄の8枚つづりの切手を1セット買いました。通院のたび、少しずつ切手を買ううちに、それがささやかな楽しみとなり、切手を集めるようになりました。切手の魅力は、様々な美しい絵がたくさんあることです。中でも、私のお気に入りには「伊勢神宮」の切手です。一番美しいと感じています。たまにタンスから取り出して眺めていると楽しい気持ちになります。

年は取りたくないものです。先日、自宅で尻餅をついてしまいました。すぐに、家族みんなが飛んできてくれて心配してくれました。たくさんの人に助けてもらっているんだと思いました。

孫に助けてもらったのが嬉しくて、ありがたくて...

普段なかなか言えない感謝の気持ちを、いつの日か手紙にしたためてみようかしら...。そして、その時は、伊勢神宮の切手を貼ってみようかしら。



わたしの お気に入り

職員の趣味 を紹介♪

仕事が休みの日には、旦那さんと畑に出るそうです。大事な孫に安心した食べ物を食べさせたいから、こだわりは無農薬。

「楽しみながら、愛情込めて野菜を育てます。」と、笑顔で話してくれたのは長寿荘の野村みち代さん。みんなのお母さんです。

野村さんが今、自宅の畑で育てている作物は、大根・白菜・ほうれん草。日ごろから愛情をこめて育てた野菜は、スクスク育っているそうです。そういえば、長寿荘の畑のジャガイモも、野村さんを筆頭にした長寿荘農作業大好きチームによって、毎年、見事なジャガイモが収穫できています。楽しんで作った野菜だからこそ、おいしいのです。

そして、野村さんの料理の腕前はプロさながらです。おっ切りこみ、手打ちうどん、よもぎ饅頭...。腹ペコの職員が、何か作ってと泣きつくこともよくあります。

自慢の料理のレパートリーは多種多彩です。煮物、ナスやキュウリのお漬物...。中でも、モツ煮は絶品です。あれあれ、どれもお酒のお供にピッタリの物ばかり。

そうです。野村さんのひそかな楽しみは、自分へのご褒美のビールです。これが料理を作る大きな楽しみであり、明日への元気の素だそうです。そして、「自分が好きなものは皆さんにも振るまいたい」という野村さん。まさに、福祉の心であります。『小料理 みち代』の次の開店が待ち遠しいです。

「おいしい」と言ってもらえることが何より幸せだそうです。食べてる人の笑顔をつまみに、ほろ酔いしているみち代さん。これまた見てみたいです。



野村 みち代
(長寿荘職員)



ほのぼのTOPICS

～地域の一員として～

スクエアステップ体操

今回は毎月、偕楽苑にて実施しているスクエアステップ体操について皆さんにお伝えしたいと思います。まずスクエアステップ体操とはどんなものか？それは「スポーツ医学や健康体力学、老年体力学を専門とする国立大学法人の教員が連携して開発した、科学的エビデンス（根拠）に基づくエクササイズ」です。スクエアステップの適用範囲は広く、高齢者の要介護化予防（転倒予防・認知機能向上）を始め、成人の生活習慣病予防、子供の身体機能の発達、あらゆる年齢層の体力作り・仲間作り、アスリートの競技力向上とコンディショニングにまで適用が可能です。特に高齢者の要介護化予防を目的とする場合、生活機能や心理社会機能の改善が重要だと言われています。



具体的には写真を見てもらうとわかりやすいようにマス目のあるマットを敷いて体操を行います。指導員より指示を受けてマス目に合わせて歩く運動になります。足の置く位置や順番などの指示を受ける為、体だけでなく頭を使うことになります。下を向いて行う体操ですが、足元に注意して歩くようになったという方もいらっしゃるそうで転倒予防には最適な運動かと思います。

偕楽苑では尾田蔭公民館でスクエアステップ体操を行っている皆さんに来てもらってご指導を頂いています。利用者さんからは「いい体操だね」「頭も使っていいね」と話があり非常に好評です。

興味のある方はYouTubeや協会ホームページ等もご覧ください。

今後も偕楽苑の利用者さんが元気に毎日を過ごせますようにご指導を受けながら、運動への楽しみが持てればと思います。

専門職のコーナー

今回のテーマ

『居宅介護支援事業所 ひだまり はじめました』

「おかえりなさい」そう迎えられ、「居宅介護支援事業所ひだまり」がスタートしました。そもそも「ひだまり」は13年前に上吉田小学校の跡地に建設された、高齢者生活支援ハウス吉祥苑と上吉田デイサービスの複合型施設です。13年前、地域の象徴だった小学校の名残を少しでも感じてもらえるよう、倉庫に残っていた航空写真や勉強机を飾ったことを思い出します。

吉祥苑は高齢者向けのアパートです。これまでに吉祥苑では、たくさんの人が生活されました。はじめて入居していただいたのは、Aさんご夫婦。元校長先生の旦那様、90歳を越えても生涯先生でした。働き者の奥様。敷地内に野菜や花を育ててくれました。困ったことがあったら何でも職員に相談してください。また、部屋に閉じこもらず皆さんで話でもしましょう。これが吉祥苑の基本的な約束です。

上吉田デイサービスは地域密着型通所介護です。開設当初は定員10名の小さなデイサービスでした。他のデイサービスが行けない処に行こう。三峰神社や群馬県まで外出しました。最初はデイサービスを嫌がっていたBさん、次第にデイサービスに来るのが楽しみになってくださいました。病気がちの娘さんのお世話とお蚕と畑仕事、外出は出来なかったと両手を合わせて感謝して頂きました。介護保険制度の中に地域密着という表現の無かった頃、まさに先駆けて地域に根差したデイサービスの始まりでした。

令和2年4月から、「居宅介護支援事業所ひだまり」が開設しました。上吉田デイサービスを利用したいので居宅介護支援事業所のケアマネージャーをお願いしたい。1ヶ月で3件も依頼を受けました。数年ぶりにひだまりに戻った私ですが、13年前考えていたように、地域の皆様とひだまりが繋がることができていると感じました。お年寄りのことで困ったらひだまりに相談しよう。そう思ってもらえるような居宅介護支援事業所の運営に励んで行けたらと思っています。今度は私が「おかえりなさい」と皆様をお迎えしたいと思います。



居宅介護支援事業所 ひだまり
介護支援専門員 岩田信明

Information (秩父市社会福祉事業団からのお知らせ)

新型コロナウイルス

今年は、2月頃から新型コロナウイルスに関するニュースが毎日、報道されています。ご家族の皆様には面会をご遠慮いただくなど、ご不便をおかけしておりますが、ご協力いただき感謝しております。

施設は、感染症に対する抵抗力が弱い高齢者や障がい者が集団で生活したり、通所したりする場です。そのため、感染が広がりやすい状況、重症化しやすい方々がいることを職員ひとりひとりが認識して、出勤前の検温、行動記録、外出自粛等、感染症予防対策を行っております。また、これからの季節は、日に日に寒さが増し、インフルエンザやノロウイルスも起きやすい時期です。今年は、コロナウイルスとインフルエンザ等の同時発生も心配されますが、感染症を防ぐポイントとして「マスクの着用」「手洗い・消毒」「密をさける」などがあります。

当法人としては、感染症発生時における感染のリスクとその対策に関する基本的な知識を身につけて、業務にあたっていきます。引き続き、施設内の感染予防に努めていきますので、施設にお越しの際には、検温、マスクの着用、手指の消毒等にご協力をお願いします。

にじいろテラス 消防訓練

にじいろテラスが8月に開所され、初めての消防訓練を行いました。消防機器の取り扱いについて確認し、消防署への通報訓練、避難訓練等を行いました。今後も定期的に消防訓練を行い、利用者の安全を確保できるよう努めます。

また、にじいろテラスは、地域の福祉避難所としての役割も担っており、災害等が発生した場合、地域の方々が避難できるスペースを備えた建物になっています。万が一の時、利用者や地域の方々が安心して生活できるよう備えていきたいと考えています。



編集後記

今年の夏は“いつもと違う夏”そう言う言葉が巷を飛び交った夏でした。本来であれば待ちに待った東京オリンピックが開催され、競技に汗を流す選手たちを世界中の人たちが応援していたことでしょう。今もなお、世界中に猛威を振るっている新型コロナウイルス。そんな中、『コロナ禍（コロナか）』という文言を耳にするようになりました。初めにこの語句を見たとき何と読むのか分かりませんでした。この『禍』という漢字には、音読みと訓読みがあります。音読みは『か』で、訓読みは『まが』や『わざわ（い）』と読みます。『わざわい』という読み方があるように、禍には災いや不幸せなどのネガティブな意味があります。予期していなかった悪い事柄や、喜ばしくない事柄に使われるのが主流です。『禍い』と『災い』は同じ読みですが、この2つには、明確な違いがあります。阻止できるものか、できないもので使い分けられているのです。『災い』は、地震や台風などの阻止できないものに使われます。一方、『禍い』は、人の手や努力などによって阻止できるものに使うのが一般的です。新型コロナウイルスに関しては、予期のできなかったウイルスによる事象ではあります。しかしながら、感染拡大の経過や成り行きについては、ひとりひとりの意識や行動次第という面もあるため、阻止できるものとして『禍』が使われているのでしょうか。私たちに今、何ができるのか。それを試される時に来ています。誰もができる些細な感染対策でも、拡大を防ぐということを自覚していきたいものです。（信）

秩父市社会福祉事業団「Facebook」更新中！ <https://www.facebook.com/chichibu.honobonomytown>

秩父市社会福祉事業団 HP アドレス

<http://www.chichibu.ne.jp/~honobono/>



秩父市社会福祉事業団

検索

